

令和4年度 子ども読書に関するアンケート結果について

アンケート実施方法：WEB 回答

(1) 実施期間

令和4年10月14日(金)～11月18日(金) 実施

(2) 対象学年

- ・町内小学校3年生 回答者 386/418名
- ・町内小学校4年生 回答者 483/487名

(3) アンケート結果による【子ども読書】の基本的視点

アンケート結果から、3年・4年生の子どもたちの読書力は、総体的に向上していると考えられる。第三次計画の推進が4年目にあたり、当計画への理解が深まり、各取組の実践が定着しているといえる。また、各関連機関の確かな実践が子どもの読書力向上に効果として表れている。

引き続き各関連機関が連携を行い、自分から進んで読書する習慣の定着を目指す。

(4) アンケートの分析 ※□内の数値はR3年度当時の3・4年生の結果

問1 自分で読書することが好き

- ・3年生 大好き・好き 79% 好きではない 4%
- ・4年生 大好き・好き 75% 好きではない 6%

自分で読書することが好きな子どもが、3、4年生ともに75%以上である。子どもたちが、自分から進んで読んでみたいと思える本と出合えるよう、様々な本に触れる機会を提供することが求められる。本の収集、本の特集展示、おすすめ本の紹介等子どもたちが興味関心を持つ内容を踏まえて取組を展開する。

問2 誰かに本を読んでもらうことが好き

- ・3年生 大好き・好き 64% 好きではない 11%
- ・4年生 大好き・好き 50% 好きではない 17%

3、4年生ともに、半数以上が誰かに本を読んでもらうことが好きと回答している。成長に伴い受動的な読み聞かせから関心が離れる傾向にあることが予想されたが、自分で読書に移行する一方で、本を読んでもらうことも継続して好きな子どもが多い傾向にある。保育園、児童館、子育て支援センター、小中学校においても工夫を凝らした読み聞かせ活動を実施しており、読み聞かせ活動が与える子どもへの満足感、安心感が子どもの読書力向上へつながっているといえる。

各校特色のある読み聞かせ活動を実施している。

【各校の工夫】

②読み聞かせの工夫

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| (1) 教師による読み聞かせ(担任、担任以外) | (4) PTA、ボランティアによる読み聞かせ |
| (2) テレビ放送による読み聞かせ | (5) 図書委員会や児童会による読み聞かせ |
| (3) ペアによる読み聞かせ | (6) 学校図書館サポーターによる読み聞かせ |

問3 家の人といっしょに読書を楽しむ

- ・3年生 よく楽しむ・ときどき 66% **60%** ない 11% **17%**
- ・4年生 よく楽しむ・ときどき 53% **49%** ない 16% **17%**

3、4年生ともに半数以上が「よく楽しむ」「ときどき楽しむ」と回答している。引き続き、保護者へ「家読」の周知や読書の環境確保等の働きかけを継続する。保護者と子どもの読書を通じたコミュニケーションがより身近なものになるよう、家庭での読書を推奨する。

問4 1週間のうち、家での読書は何日

- ・3年生 毎日・3～4日 44% **43%** 0日 18% **24%**
- ・4年生 毎日・3～4日 44% **42%** 0日 23% **23%**

3、4年生ともに、「毎日・3～4日」の回答率が44%であり、前年比だと、微増している。「0日」と回答した3年生は、前年度比6%減で不読率が減少している。不読率を少しでも減らせられるよう、働きかけが必要である。

問5 家での1日の読書時間

- ・3年生 1時間以上・30分以上 34% **34%** 10分以下 38% **38%**
- ・4年生 1時間以上・30分以上 33% **32%** 10分以下 37% **40%**

前年度比は、ほぼ横ばいである。「10分以下」の回答が一定数あるため、家での読書時間が増えるよう、働きかけが必要である。また、「1時間以上・30分以上」の回答率を保つことができるよう、家での読書を推進していく必要がある。

問6 寝る前の読書

- ・3年生 かならず・ときどき 34% **49%** 読まない 44% **38%**
- ・4年生 かならず・ときどき 30% **44%** 読まない 47% **38%**

寝る前の読書の「読まない」との回答は一定数ある。少しでも寝る前の読書に親しむ時間の確保がされるよう働きかけが必要である。関連機関から家庭向けの配布物等を活用し、寝る前の読書推奨を行う。

問7 1か月間、家で読んだ本の冊数

- ・3年生 5冊以上・3～4冊 60% **62%** 0冊 13% **15%**
- ・4年生 5冊以上・3～4冊 56% **61%** 0冊 19% **14%**

3、4年生ともに「5冊以上・3～4冊」との回答が半数以上で、多くの子どもが複数の本を読んでいることがわかる。「0冊」との回答率が一定数いるが、読書することが苦手な子どももいるため、読書が義務ではなく、読書を楽しめるような意識づくりが求められる。「0冊」回答者への働きかけ強化が必要である。

問8 1か月間、「東浦町中央図書館」を訪れた回数

- ・3年生 5回以上・3～4回 26% **23%** 0回 35% **42%**
- ・4年生 5回以上・3～4回 21% **15%** 0回 43% **53%**

前年に比べ、中央図書館への来館回数が増加している。コロナ禍が落ち着きつつあることや、2～3

年生時の図書館見学時には、図書館職員による館内ツアーを実施しており、見学をきっかけに、図書館への興味や関心が増した可能性が考えられる。図書館から離れた地域に住む子どもたちは、自力で来館することが困難であるため、図書館としてイベント、講座等、親子で図書館に来館できる機会の提供を行う必要がある。

貸出点数の推移

年 齢	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
7～9 歳	22,302 点	17,556 点	11,676 点	17,887 点	17,585 点
10～12 歳	13,968 点	14,582 点	7,530 点	11,022 点	10,647 点
13～15 歳	3,688 点	3,105 点	1,392 点	2,673 点	4,103 点
16～18 歳	1,369 点	1,011 点	592 点	650 点	868 点

※ 団体貸出と学級文庫充実事業（小学校6校 学期ごとに150冊）は除く。

問9 「中央図書館だより」は役に立つ

- ・ 3年生 とても役立つ・役立つ 60% **57%** 役に立たない 38% **21%**
- ・ 4年生 とても役立つ・役立つ 59% **45%** 役に立たない 34% **24%**

3、4年生ともに前年に比べ「とても役立つ・役立つ」との回答が増加している。一方で「役に立たない」と回答する児童が一定数いる。中央図書館だよりの認知度向上を図り、印象に残る情報発信を行う必要がある。本の紹介だけではなく、図書館のイベントの情報提供も行い、さらに役立つたよりにする。

問10 中央図書館の「読書通帳」の活用

- ・ 3年生 いつも使う・時々使う 39% **24%** 使わない 21% **51%**
- ・ 4年生 いつも使う・時々使う 36% **19%** 使わない 25% **58%**

3、4年生ともに「いつも使う・時々使う」と回答した率が増加した。図書館見学の際に、読書通帳を紹介し、使用方法の説明を行った効果が表れていると考えられる。一方で、図書館での読書通帳達成者の引き換え数が少数であるため、回答率に各学校で配付されている独自の読書通帳の活用分を含んでいる可能性がある。

4 その他

(1) 団体貸出点数

団体名	H29 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4
小・中学校	711 点	630 点	446 点	198 点	270 点
保育園・児童館・子育て支援センター・図書館ボランティア団体、図書館団体利用登録団体等	1,183 点	1,085 点	679 点	630 点	902 点

(2) 大型絵本・紙芝居・大型紙芝居 貸出点数

資 料	H29年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4
大型絵本	231点	221点	66点	85点	142点
紙芝居	450点	780点	241点	280点	300点
大型紙芝居	15点	10点	7点	10点	17点

※ 令和4年度の期間：令和4年4月1日～令和5年1月31日

(3) 各校の「具体的な取組」(重点目標)の達成度

小学校 (7校)

中学校 (3校)

具体的な取組	小学校 (7校)		中学校 (3校)	
	達成度5	達成度4	達成度5	達成度4
⑤読書タイムの継続	4校	3校	3校	—
⑥読み聞かせの工夫	3校	3校	1校	1校
⑦マイブックの習慣化	2校	4校	0校	2校
⑧家庭読書の推奨	3校	1校	2校	1校
⑨図書資料の選定	4校	2校	3校	—
⑩図書コーナーの工夫	2校	3校	3校	—
⑪学級文庫充実事業	2校	3校	1校	1校
⑫団体貸出制度	1校	4校	0校	0校
⑬リサイクル資料	3校	1校	0校	0校

※ 達成度5…十分達成できた 達成度4…ほぼ達成できた

達成度の評価は取組内容によって差があるが、⑪学級文庫充実事業、⑫団体貸出制度、⑬リサイクル資料の取組は、中央図書館の働きかけによって、各校における取組での活用向上が見込めるため、利用方法を周知し、各機関の利用及び活用を推進する。